

森の花屋計画  
フォトギャラリー

お家に丸ごと 森を運ぶ店

ふくとみタイムズ



目立たぬ草花や木の実が主役



きこりやとタッグでパワーアップ



↑「森の花屋」プロジェクトのクラウドファンディングサイト（CAMP FIRE）はこちらから。受付は9月25日まで。



四季折々の草花で山の魅力発信

「森の花屋」新設へ

上戸野の木工店きこりや併設

アラフォー隊員  
きょーれんの最近の活動



東広島市福富町上戸野の木工品店「きこりや」の店主下永速さん（64）が、野山に咲く花などを販売するフラワーショップの開店を計画している。流通しにくい野山の草木花の魅力を発信し、森への関心を高めてもらう狙い。資金の一部をクラウドファンディングで募りながら、建設を進めている。  
店名は、森の花屋「Kiorico（キオリコ）」。  
2018年7月の西日本豪雨で被災したきこりやの離れを取り壊し、跡地に建てる。  
店には、福富町や周辺の山に咲くスズラン、ヤマアジサイ、ヤマザクラなど四季折々の花を並べる。ドライフラワーや木製の花台、薬草なども販売。クロモジの木から抽出するアロマオイルの工房も併設する。7月に店舗の建設に着手し、現在は柱がおおむね組み上がった。10月のプレオープン、12月の開店を目指す。  
福富町で生まれた下永さん。戦後ほどなく製材業を興した父・幸吉さん（故人）に付いて、幼いころから福富の森に親しんだ。  
家業を継ぎ、1999年にきこりやを開店。木々の温もりや多様さを、一般の人に届けたいとの思いからだった。山仕事の現場で目にする花は色も形も控えめ。だが、栽培された花にはない力強さと可憐さを感じるといふ。その魅力を発信する拠点をつくろうと、森の花屋新設に乗り出した。開店資金は約400万円を見込む。半額に当たる200万円をクラウドファンディングで調達する計画だ。  
下永さんは「一般にはなじみのない山の花を通じて、たくさんの人に新鮮な驚きを伝えたい」と意気込む。

生花や木製花台など販売  
アロマオイル抽出工房も

◎こども農園mikke参加者と懇談（7月31日）  
自宅そばの農地を拠点に活動している「こども農園mikke」に継続参加している青年が、3度目の訪問をしてくれました。彼は難治性疾患が原因で不登校を経験。この日は彼の体調がすぐれないため農作業はやめ、室内で色々語り合いました。



◎シエア農園づくりへ（7月26日）  
しやくなげ館向かいの農地を活用し、シエア農園づくりに挑みます。「農の生活」に興味がある家族&グループが、気軽に野菜作りや地域との交流を楽しめる農園。一部は不登校や病気などで外に出る機会が少ない人たち向けに整備します。これまでに農地を使っていたしゃくなげ館の方々の仲介で、7月26日に初めて地主さんと会いました。今後は地域の皆さんの助言&助力を乞いながら、具体化させたいと思います。

◎東広島市長の視察案内（8月3日）  
高垣広徳市長が、こども農園mikkeとシエア農園予定地を視察してくれました。今春初めてmikkeで手植えをした「米作り体験」用の田を眺め、活動への助言をもらいました。市長はしゃくなげ館館長や僕がお世話になっている近所の農家さんたちとも意見交換しました。

◎フリースクール関係者の視察案内（8月18日）  
市外のフリースクール関係者3人が、mikkeの活動を視察してくれました。シエア農園参加にも前向き。一緒に楽しい妄想を膨らませながら、登立公園や道の駅なども巡りました。



シエア農園計画  
市長の視察案内

